特集　アメリカ太平洋とイギリス帝国

特集にあたって

木　畑　洋　一

東京大学アメリカ太平洋地域研究センターでは、2008年9月13日（土）に、「アメリカ太平洋とイギリス帝国」というテーマのもとで、シンポジウムを開催した。本号の特集は、このシンポジウムにおける報告とコメントから成っている。

このシンポジウムは、その英語名が ”The British Empire, Australia and the Americas” であったことに示されるように、オーストラリアに一つの力点が置かれていた。東京大学駒場キャンパスでは、1970年代後半以降これまで約30年にわたって、オーストラリアから第一線の研究者を招いて、オーストラリア関係の教育にあたっていただいてきた。2000年にアメリカ太平洋地域研究センターが発足してからは、オーストラリアからの客員教授は本センターに所属して、教育と研究に従事している。これまでも、センターでの通常の研究会ではそうした客員教授の方々に報告をお願いしてきたが、オーストラリアの問題を中心にすえた企画が行われたことはなかった。従って、このシンポジウムはそのような企画としては最初のものとなる。

シンポジウムのテーマとしては、アメリカ合衆国とオーストラリアに共通する歴史的背景としてのイギリス帝国との関係に焦点をあてることにした。幸い、2008年度は豪日交流基金を通してオーストラリア政府から寄付金をいただいたため、メディア分析を軸としてオーストラリア社会について活発な研究を行われているフィリップ・ベル教授（ニューサウスウェールズ大学）をお招きすることができ、アメリカ太平洋地域研究センターの客員教授デイヴィッド･カーター教授（クィーンズランド大学)、および日本におけるオーストラリア政治・外交研究の第一人者福嶋輝彦教授（桜美林大学）との三人の報告者によって、オーストラリアに関する多角的な報告を組むことができた。

また、アメリカ近代史の権威であるアラン･テイラー教授（カリフォルニア大学デイヴィス校）にも報告者に加わっていただき、アメリカ合衆国建国期を対象とする鋭い切り口の報告を行っていただいた。

本特集は、これらの報告と、本センターの古矢旬教授、橋川健竜准教授によるコメントから成る。

なお、このシンポジウム開催に際して、アメリカ研究振興会からいつも変わらぬご支援をいただいたこと、さらにオーストラリア大使館、豪日交流基金からのご後援をいただいたことに対し、心からお礼を申し上げたい。